

外国人材採用に力

盛岡で就職支援イベント

県内企業17社が参加

高い日本語能力に注目

県は3日、県内の留学生や求職中の外国人の就職と県内定着を支援する「グローバルキャリアフェア」を盛岡市内のホテルで開いた。アジアや欧米の15カ国から49人と、県内企業17社が参加。増加するインバウンド（訪日外国人客）への対応や深刻化する人手不足が課題となる中、企業側は即戦力となる日本語能力の高い外国人材の採用に力を入れ始めており、県は両者のマッチングを強化する方針だ。

県内在住者を中心に中国やベトナム、米国などの外国人が参加。企業側は機械や食品などの製造業のほか、農業関連やホテルなど幅広い業種がブースを設け、業務内容を説明した。県行政書士会も参加し、留学生らが就職する際に必要

となる在留資格の変更などの相談に応じた。

ベトナムから岩手大に留学中のドアン・ホン・フーさん(22)は「日本での就職を考えており、まずは岩手の企業を詳しく知りた」と参加。米国出身で、福島県南会津町で外国語指導助手として働くジョン・オスボーンさん(26)は「日本での経験が生かせる仕事を探している」と情報を集めていた。

日本語が堪能な外国人材には、観光業を中心に熱い視線が送られた。雫石町の休暇村岩手網張温泉の佐藤邦好支配人は「インバウンドへの対応が急務。岩手を知っている人材が働いてくれれば心強い」と採用に積極姿勢。

一方、県内では県南部への企業進出などに伴う人手不足も深刻化しており、北上市の穀物加工機械製造、東北佐竹製作所の田村学総務部主事は「人材の奪い合いで一般の採用では非常に厳しい。外国人材も重要な

対象として考えている」と生産管理や情報処理技術者を求めている。

単純労働分野への外国人の受け入れ拡大が議論となる中、専門知識を持つグローバル人材は各地で獲得競争が激しくなっている。

県国際室の押切拓也室長は「留学生らは即戦力として期待が高い。一人でも多くの方が岩手に残って仕事ができ、地域の国際化にもつながるよう、マッチングに力を入れたい」と話す。



県内企業の説明を熱心に聞く留学生や求職中の外国人